多額ご寄付の山田長満氏に感謝状

国際化推進のために学校法人専修大学に多額の寄付をいただいた本法人理事で川崎商工会議所会頭の山田長満氏に、日髙義博理事長が感謝状を贈った。山田氏は30年にわたり、本学の国際交流活動を支援。その功績をたたえ、留学生が暮らす国際交流会館内の多目的ホールは「山田長満インターナショナルホール」と命名されている。

山田氏は12月9日に神田キャンパスを訪問。感謝状を受け取った後、日髙理事長や矢野建一学長らと懇談した。山田氏は「専大生と留学生はハートでつながっているように感じた。世界的な視野や発想を持った人材が、今後ますます専修大学から飛び立ってほしい」と期待を込めて語った。

▶感謝状を受け取る山田氏

「量は質になる」

OB笠原さん 後輩に伝える

ビジネスの第一線で活躍する講師による経営学部のグローバル・マネジメント講演会が12月3日、生田キャンパスであり、卓球部OBで通信のベンチャー企業を経営する笠原鉄男さん（昭56経済）がこれまでの足跡と今後の成長戦略について、後輩たちに語った。

笠原さんは現役時代に卓球部のキャプテン、現在は同部OB会幹事長を務める。卒業後はシチズン時計に入社、シチズンヨーロッパ、同アメリカの社長を歴任した。退社後、2009年にデジタル情報通信技術開発会社のフローラウトジャパンを立ち上げた。学生時代は「4年間生田の〝山〟を駆け回り、卓球しかやらなかった」という笠原さん。「企業は、何かや り抜いた人材を求める。私の信念は〝量は質に変わる〟。大学の間に、何か一つ一生懸命やったほうがいい」と語った。

会社員時代は「絶対だれにも負けない」という気持ちを持ち、独学で英語や簿記を身につけた。やがて業績が認められ、30代という異例の若さで海外現地法人の社長に就任。「グローバル経済といっても、それを動かすのは人。腹を割って話し合うことが原点」と述べた。45歳で退職、一念発起し起業した。「社会性のあるビジネスでないと生き残れない」とベンチャー経営のノウハウを語り、「苦しいときもあるが志が高ければ解消する」と説いた。

講演会は笠原伸一郎教授の国際経営論の講義で実施、卓球部部長の是永隆文准教授がコーディネーターを務めた。体育会所属の他学部生も大勢聴講し、レスリング部の河名真寿斗さん（文3）は「笠原さんのように活躍している体育会出身の先輩がいるのは励みになる。量は質になるという言葉が胸に響いた」と語った。野球部の市川幹人さん（経営3）は「自分も野球しかやっていないが、何か一つに打ち込むことが大事と教わり、今やっていることは正しいと信じて前に進みたい」と述べた。

▲「海外でもベンチャーでも高い目標を掲げれば必ず成し遂げられる」と語る笠原鉄男さん

専大校友を訪ねて

20年ぶり本舞台に戻った浪曲師 木村勝千代さん（平2文）

物語を、曲師のアドリブ三味線を伴奏に語り、うなる大衆演芸「浪曲」。そこには笑ったり、泣いたり…義理人情がたっぷりで「人生の先生」ともなってくれる。

浪曲との出合いは、父に勧められレコードで聴いた二葉百合子の『岸壁の母』だ。出征した息子の帰りを岸壁で待ち続ける母の物語に感動。30分間の壮大な曲をすぐさま覚え、地元（山梨県）の会合で披露した。すると会場の老若男女が涙、涙。「自分にも人に喜んでもらえることがある」。この時小3の少女は関東節の名浪曲師・木村松太郎に師事。「一席（一つの話）覚えることが日常になって」浪曲を習得した。

2年後の1977年に浅草木馬亭で初舞台。「天才少女浪曲師」木村勝千代は人気者に。

高校時代に師匠を亡くしたが、文学部国文学科の石黒吉次郎ゼミで学んだ専大時代も舞台に立ち、テレビにも出演した。卒業後は浪曲と二足の草鞋を履くつもりが仕事に忙殺。その後結婚、出産で浪曲から遠ざかった。

ある日、子ども向けのテレビ番組からリズミカルな三味線とうなりが耳に飛び込んだ。浪曲界を代表する国本武春さん（2015年12月急逝）の熱演で、一気に浪曲の世界に引き戻された。曲師・沢村豊子さんの下で稽古を重ね、13年、亡き師匠の十八番『芝浜の革財布』で20年ぶりに浅草木馬亭の舞台に立った。

2児の子育てと母校・同県上野原高で非常勤講師として古典を教えつつ月1回、浅草木馬亭の舞台に立つ。浪曲の心を子どもたちに伝えたいと中・高の課外学習で実演、普及にも努める。

浪曲の魅力は「想像力をかき立てられる」ところだと言う。専大文学研究会の先輩で作家の上野歩さんの作品を浪曲にするなど新作にも意欲的。1月23日には新作浪曲二人会（玉川太福さんと共演）を浅草木馬亭で開く。原爆を題材にした『伸ちゃんの三輪車』『真っ黒なお弁当』をたっぷり演じる。

「泣き」「笑い」…子らに心を伝えたい

専修人の新しい本

<校友>

わたし、型屋の社長になります

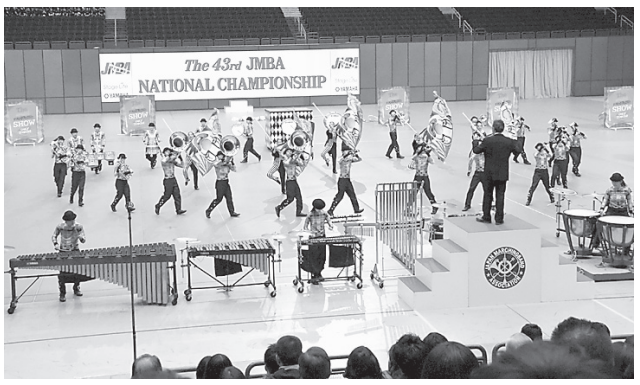
上野歩著

前作『削り屋』に続く上野歩さん（昭63文）の〝製造業応援小説〟第2弾。手作業で切削加工を行う「削り屋」から、プラスチック部品の金型を作る「型屋」に舞台を移し、父の急病で家業を継ぐことになった29歳のアッコ社長の奮闘を追う。広告代理店から転じた花丘明希子を待っていたのは借入金3億円、売り上げ前年比50％ダウンという実家の危機。「銀行は催促。人材は流出。注文は難題。」（帯より）と困難山積のなかで、明希子は次々と新たな技術の開発に社員を駆り立てる。

専大在学中からの盟友、株式会社NCネットワーク社長の内原康雄さん（昭63経営）に「中小製造業を盛り上げる読み物を」と依頼され、取材を開始。上野さん自身、東京・墨田区でプラスチック成型加工を営む家の生まれで、「仕様書以上の要求に応える」という町工場の心意気と技術力がつぶさに描かれている。

同社のウェブサイトに連載した「KATAYA 金型屋物語」を改稿し、書き下ろしを加えた文庫オリジナル。刊行後間もなく増刷が決定した。（小学館文庫・本体690円＋税）

マーチングバンド全国大会
専大玉名高が2年ぶり金賞



12月20日に開かれた第43回マーチングバンド全国大会（日本マーチングバンド協会主催、さいたま市）の高校・小編成部門で、専修大学玉名高校（熊本県玉名市、松野孝則校長）吹奏楽部「VENTURES」が2年ぶりに金賞に輝いた＝写真。

また、同中編成部門では専修大学北上高校（岩手県北上市、髙橋等校長）吹奏楽部が4年連続で銅賞を受賞した。

叙勲受章者

◇瑞宝双光章
西川邦英さん（昭42経済＝危険業務従事者）

外務大臣表彰

◇2015年度表彰
溝口鐵一郎さん（昭40法＝日本と香港との相互理解の促進）
◇日米戦後70年に際する表彰
馬場光國さん（昭45商＝日本とアメリカ合衆国との相互理解の促進）

校友会からのお知らせ

〈長崎支部新年総会〉
▽1月16日（土）18時30分～▽JR長崎駅より徒歩3分「サンプリエール」圓殿村周三氏☎095・845・2938（株式会社福砂屋内）

〈相模原・町田・多摩・横浜・城南・川崎支部・専修鳳歩こう会合同新春賀詞交歓会〉
▽1月23日（土）13時▽京浜急行川崎大師駅改札集合。初詣後、賀詞交歓会圓田村昌男氏☎090・2211・6993

税理士試験合格 卒業生へお願い

本学出身の会計士・税理士の会である専修大学会計人会（吉田伸江会長）では、合格者の方への支援やネットワークづくりのため、2015年度税理士試験に合格した（一部科目合格も含む）卒業生の情報を求めています。合格者の方は、校友会事務局（☎03・3265・7579、E-mail：koyuka@acc.senshu-u.ac.jp）までご連絡ください。ご協力をお願いいたします。

アドニス74号刊行

主な内容▽新春特別座談会＝小沢一郎経営学部教授と同ゼミ卒業生の澤井一孝さん（平23院経営修）、越地直人さん（平23経営）、堀内しおりさん（平25経営）に在学中の思い出を語ってもらいました。▽われら専修人＝相原澄子さん（昭45商）、小橋三男さん（昭52経営）

間違った優越感

先日退任した厚生労働省の村木厚子前事務次官が、退任のあいさつの中で、次のように言っています。

「自分が支える側にいると思っている間違った優越感を非常に実感し、誰でも支えてもらわないといけなくなるということを実感した」。この発言は、平成21年の郵政不正事件（村木氏が虚偽有印公文書作成・同行使罪で起訴され、無罪となった事件）について語ったものです。

私は、この言葉にキャンパス・ハラスメントを抑止するヒントが隠されていると思います。

キャンパス・ハラスメント対策室が平成23年4月に設置されてから、5年になろうとしています。この間、さまざまな相談が寄せられましたが、相談件数は高止まりで推移し、その内容は深刻さを増しています。

その原因はどこにあるのでしょうか。私は、間違った優越感にその一因があると思います。ハラスメント加害者は、自分がハラスメントの被害に遭うかもしれないとはまったく考えないようです。自分が周りの人より優越した立場にあると勘違いしているのです。もちろん、これは大きな間違いです。自分が被害者になっていないのは、たまたま周囲の人に支えられているからに過ぎません。周囲の支えがなくなれば、たちまち被害者になるかもしれない。決して優越した立場にはないのです。このことを想像してほしい。謙虚になって、間違った優越感を実感してほしい。

誰しもハラスメントの被害者になることは望んでいませんので、自分が被害者になるかもしれないと思えば、周りの人たちへの接し方も自ずと変わると思います。

（キャンパス・ハラスメント対策室員・福田　竜也）

Stop Campus Harassment
ハラスメントのないキャンパスへ